



優秀賞

岡山県遊技業協同組合
「青少年の健全育成に取り組む団体への
補助金贈呈」事業



岡山県遊技業協同組合 理事長
松村高男さん

青少年の健全育成に取り組む団体を

戦後の日本における少年非行の件数には、4つの大きな波があるとされている。第1のピークは昭和26年前後、第2のピークは昭和39年前後、第3のピークは昭和58年前後、そして第4のピークは平成10年前後である。ここ数年、非行総数自体は減少傾向にあるが、少年人口比では依然として高い水準で推移している。

とくに最近には凶悪犯(殺人、強盗、放火、強姦など)、粗暴犯(暴行、障害、脅迫、恐喝など)、薬物乱用、性非行などが目立ち、少年非行はより深刻化しているといえる。その原因は複雑多岐にわたっているが、背景にはモラルの低下や、格差社会がもたらす弊害があることは否めない。少年非行は当事者だけの問題ではなく、社会状況を映し出す鏡ともいえるだろう。それゆえ、社会全体で対処していくことが求められる。

少年非行が第2のピークを迎えていた昭和40年10月、岡山県遊技業協同組合では400万円の基金を拠出し、青少年の善導と非行防止、および青少年問題対策に寄与することを目的とする「財団法人 岡山県青少年育成協会」を設立した。その後、昭和49年8月に「財団法人 岡山県青少年財団」に名称変更したが、設立以来、毎年400万円を財団に寄付し続け、寄付金総額は通算43年間で1億7200万円に達している。

岡山県青少年財団は、その事務局を岡山県防犯協会内に置き、地元企業の経営者、教育関係者、行政首長、警察関係者などが役職に就いているが、県遊協からも常務理事に松村高男 理事長、監事に菊田正一 副理事長、評議員に秋山重次郎 副理事長、幹事に本田信 専務理事が名前を列ねている。

岡山県青少年財団では、青少年の非行防止および健全育成活動に取り組んでいる団体への補助金の交付、青少年の文化活動に取り組んでいる団体への助成金の交付、さらに青少年の健全育成活動に対してきわめて優秀な成果をあげた個人・団体の顕彰を事業の柱にしているが、発足当初から現在まで、のべ1300団体に補助金や助成金の交付を行ってきた。

2008年は、6月に11団体(県青年団協議会、県産業教

支援するため、補助金交付を43年間継続中

青少年の健全育成支援 県財団 14団体に224万円贈呈

青少年の健全育成団体を支援する「岡山県青少年財団」(理事長・末長範彦岡山トヨペット社長)の補助金贈呈式が8日、岡山市古京町1丁目後も青少年の健全育成、社会

の三光荘で開かれ、14団体に計224万円が贈られた。末長理事長が「子どもの悲惨な事件などが起る中、今後も青少年の健全育成、社会全体が明るくなるように尽力してほしい」と述べ、各団体の代表に補助金を手渡した。同財団は、1965年に県遊技業協同組合からの基金400万円で設立。同組合から毎年400万円が寄付され、6月にも11団体へ計164万円を交付している。今回、補助金を受けた団体は次の通り。

岡山少年院後援会、県少年警察協働員連合会、県立成徳学校後援会、岡山市スポーツ・文化振興財団、県子ども会連合会、社会を明るくする運動岡山市実行委、県更生保護女性連盟、県教育振興会、県保護司会連合会、県わんわんパトロール隊、県青少年育成県民会議、岡山県青少年育成協議会、県中央里親後援会、県少年を守る母の会連合会

末長理事長らから補助金を受け取る各団体の代表 (三光荘)

岡山日日新聞に掲載された補助金贈呈式の模様

育振興会、県スポーツ少年団、県FOS少年団連盟、県レクリエーション協会、県読書推進運動協議会、県防犯協会、新天地育児院、坪田譲治を顕彰する会、県BBS連盟、県ユースホテル協会)、12月に14団体(岡山少年院後援会、県少年警察協働員連合会、県立成徳学校後援会、岡山市スポーツ・文化振興財団、県子ども会連合会、社会を明るくする運動岡山市実行委員会、県更生保護女性連盟、県教育振興会、県保護司会連合会、県わんわんパトロール隊、県青少年育成県民会議、岡山県青少年育成協議会、県中央里親後援会、県少年を守る母の会連合会)の計25団体に補助金を交付した。

交付に当たっては、岡山市内のホテルを会場に贈呈式を行い、毎年、その模様を地元テレビ局や新聞社が取

材して報道することで、県下全域に事業内容が認知され、年々、助成を希望する団体が増えてきている。また、県遊協と青少年財団の活動としてスタートした事業だが、県遊協岡山支部、倉敷支部、水島支部、総社支部が賛同し、20万円～50万円を個別に寄付するなど、その輪が広がりつつあるのも特筆すべきことである。

交付を受けた団体からは、「少年非行の撲滅に取り組みたい」、「青少年の文化活動、健全育成のため、一生懸命取り組んでいきたい」といった謝辞が多く寄せられている。日本の将来を担う青少年の健全育成は、どんな時代になろうとも最優先で取り組まなくてはならない課題であり、そのための継続支援は社会的価値の高い事業といえるだろう。